

# 本市の特性と潜在力

政令指定都市に移行してどのような都市をめざしていくのかについて、「相模原市政ビジョンでは相模原市の特性や潜在力、課題等を踏まえ、政令指定都市移行の理念や

政令指定都市ビジョン（略称：さがみはらSビジョン）」をまとめました。都市づくりの基本方針を示しています。

## 交通基盤

市内には、中央自動車道や国道16号、国道20号などの広域的な道路交通網や、鉄道路線として、JR中央本線・横浜線・相模線、小田急小田原線・江ノ島線、京王相模原線があり、東京都心や横浜に直結する広域交通網が発達しています。

特に、国道16号やJR横浜線・相模線や、現在建設が進んでいるさがみ縦貫道路（首都圏中央連絡自動車道の一部）など、都心方面だけでなく、横浜や湘南方面に向けて南北に走る路線（セカンドベルト）が充実しています。

また、リニア中央新幹線構想や小田急多摩線の市内延伸の取り組み、津久井広域道路の整備など、交通基盤のさらなる強化により、広域交流拠点都市としての可能性が高まっています。



## 教育

市では、社会の変化に対応した情報教育、外国人英語助手（ALT）などを活用した国際教育、市内全小・中学校が参加する総合的文化発表会「さがみ風っ子文化祭」の開催、相模川自然の村をはじめとする野外体験学習の充実などがみはら教育のほか、住民主体の公民館運営・活動に代表される生涯学習の取り組みを展開しています。

また、周辺地域には多くの大学が集積し、地域の大学との連携による市民の生涯学習機会の充実や、学校教育の直接の担い手である教員の確保などにより、教育環境のさらなる充実を図ることが期待されています。

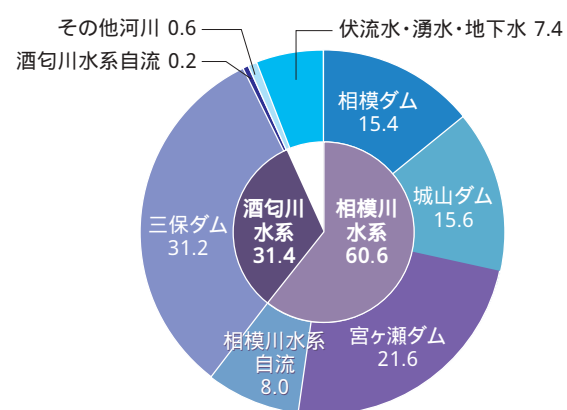
## 自然

本市は、首都圏にありながら、豊かな自然環境を保全すべき地域、都市機能が集積する市街地、そして都市と自然の調和に配慮しつつ活力の維持・創出を図る地域とをバランスよく備えています。

また、県内の上水道の約6割は、相模ダム、城山ダム、宮ヶ瀬ダムなどの相模川水系により賄われており、豊かな水源は神奈川県の水がめとして、重要な役割を担っています。

神奈川県内上水道の水源別構成比（平成17年度：％）

資料 / 神奈川県「かながわの水資源環境の保全・再生をめざして」



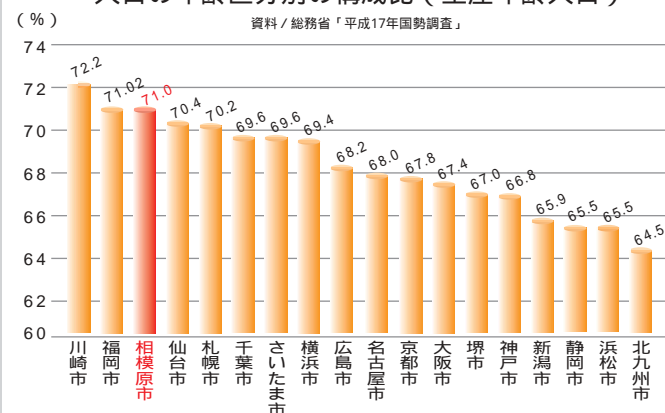
## 市民の活力

市内には、団塊の世代とともに、団塊ジュニア世代を中心とした比較的若い世代も多く居住しており、平成17年国勢調査を元にした平均年齢は40.7歳と、全国平均の値を2.6歳下回っています（全国：43.3歳）。

なかでも生産年齢人口の割合が高く（71％）、政令指定都市との比較では川崎市、福岡市に次ぐ高さとなっています。

人口の年齢区分別の構成比（生産年齢人口）

資料 / 総務省「平成17年国勢調査」



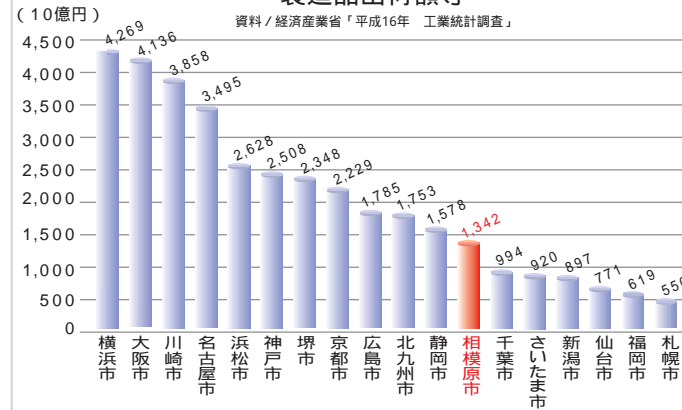
## 産業

旧相模原市は、平坦な地形、交通網などに恵まれた立地条件を背景に、急速な都市化とともに内陸工業都市として発展してきました。製造業については、既存の政令指定都市と遜色ない集積の度合いをみせているほか、物流機能や大学・研究機関についても集積が高まっています。

また、市内2か所に設置が予定されているさがみ縦貫道路のインターチェンジ周辺地域や、一部返還が見込まれている相模総合補給廠などは、新たな土地利用の期待が高まっています。

製造品出荷額等

資料 / 経済産業省「平成16年 工業統計調査」



## 行財政

本市は、市税収入割合が高いことから自立的な歳入構造を有し、既存の政令指定都市と比較して市民一人当たり地方債残高が低いほか、人口規模に比べて少ない職員数で効率的な行政を展開するなど、将来に負担を残さない自立的・効率的な行財政運営に努めています。

職員1人あたりの住民基本台帳人口

資料 / 総務省「平成18年地方公共団体定員管理調査」



## 保健・医療

本市は、首都圏の政令指定都市と比較すると、市民10万人当たり病床数は最も高く、市民10万人当たり医師数も2番目に高い状況にあります。

また、市ではメディカルセンターの設置や、市医師会・各医療機関との連携により、救急医療ニーズへの対応など、身近な地域で安心した医療を受けられる環境づくりを進めています。

一方で、本市は、市民総ぐるみの健康・体力づくりの取り組みを進めており、全国的にも高く評価されています。保健と医療、さらには福祉分野との連携を一層進めることにより、市民が健やかに暮らせるためのサービスの充実が期待されます。

首都圏の政令指定都市における市民10万人当たり病床数・医師数

資料 / 厚生労働省「医療施設(動態)調査」「医師・歯科医師・薬剤師調査」(平成18年)

